

20230915 「平和を伝え語っていくこと」

2015年にNHKが当時20歳以上の男女を対象に、広島と長崎に原爆が投下された年月日を尋ねる世論調査を行いました。広島市、長崎市、全国別に分析しています。その結果、全国の正答率は、わずか3割だったとのことで、当時とてもセンセーショナルに報じられました。この調査は、10年ごとに行われてきたということで、次の調査は2年後ということです。

2015年と1995年のデータを見比べると、正答率の低下は明らかに見て取れます。

■広島への投下日の正答率

【広島市】

77.0% (1995年) → 68.6% (2015年)

【長崎市】

85.1% (1995年) → 50.2% (2015年)

【全国】

37.5% (2005年) → 29.5% (2015年)

■長崎への投下日の正答率

【広島市】

57.9% (1995年) → 54.2% (2015年)

【長崎市】

89.8% (1995年) → 59.2% (2015年)

【全国】

25.6% (2015年)

この調査では、月日だけでなく「年」も答えさせているので、日付だけならもっと正答率は上がったのだらうと思いますが、それでも、被爆地広島で7割、長崎でも正答が6割だったというのは「戦争記憶の風化」の表れではないかと考えさせられます。

随分前になりますが、モンゴルの歌姫オユンナさんのコンサートにいきました。オユンナさんは、モンゴル、ウランバートル出身で、1990年に13歳で日本レコードデビューし、その年の暮れのNHK紅白歌合戦に当時最年少で出場、その澄みきった歌声が天使の歌声と評され、日本にモンゴルブームを巻き起こしました。この日

のコンサートで、オユンナさんがステージから語りかけた言葉を私は忘れることができません。オユンナさんは、こんな内容の話をしてくださいました。

「日本は世界で唯一原爆の被害にあった国です。この原爆のことを、モンゴルでは子どもの頃からしっかり学びます。だから、8月6日と8月9日のことは、モンゴル人はみんな知っています。日本に来たとき、お会いする方々にこの8月6日や8月9日のことを聞いてみたんです。でも、みんな何のこと？といった感じで、原爆の日ですよねと初めてああそうだね、という反応だったんです。私は信じられませんでした。落とされたのは自分の国なのに、自分の国で起こった悲劇が忘れ去れようとしている……。これでいいの？と強く思いました（趣意）」

9月11日に、

“ドイツに住んでいた時、「教育の目的は何ですか？」と聞いた事があります。

「たった一人でも反対できる人を育てる（戦争の悲劇を繰り返さないため、国家権力が暴走しないように）」と返ってきました。

目的が明確なので、手段もそれに沿ったものになります。

ドイツでは「自分の意見を発言できたか」などで成績の60%が決まるそうです。“

（谷口貴久さんの講演より）

との谷口貴久さんの話をご紹介させていただきましたが、日本ほど世界に核の悲惨さ、平和の尊さを伝え、広める使命を持った国はないと思います。平和への強い意志を育み、粘り強い対話を実行できる力を高めていくことは、学校と家庭の大切な役割なのではないでしょうか。

オユンナさんの大切にしている一曲に「ヒロシマの折鶴」があります。広島原爆の被害に遭った少女が折り鶴に託したメッセージを歌にしたものです。

平和を守るということは、勇気と信念を持って戦争の過ちを後世に伝えていくということでもあります。「一人だけで変えられると思っているロマンチストでなく、一人からしか変えられないことを知っているリアリストでいたい」、「一人の力は小さいかも知れないけれど、何事も一人からしか始まらない」という言葉を聞いたことがあります。

オユンナさんの歌うこの歌は、日本を越えて、故郷のモンゴルでも広がっています。環境を変えていく取組も、平和をつくり広げていくことも、「知って」「伝えていかなくちゃ」「何とかしなきゃ」という素直で自然な思いの発露なんだろうと思います。今の五小の「持続可能な社会を担う子どもたちを育んでいこう」という取組も、そうした平和で豊かな世界をつくっていく流れの一滴になればいいと願います。